

徳島大学研究クラスター活動報告・講演会

「がん治療支持療法開発クラスター」

■日時：平成30年3月5日（月曜日） 16:30 ～ 18:00

■場所：藤井節郎記念ホール

1. クラスター活動報告

「がん治療の味覚異常に対する支持療法の開発」活動報告 16:30～17:00

阪上 浩

がん治療支持療法開発クラスター長

徳島大学大学院 医歯薬学研究部 代謝栄養学分野・教授

■要旨：本クラスターでは、化学療法や放射線療法などのがん患者の味覚異常に対する新たな支持療法を確立する目的で、味覚改善剤の開発・臨床試験、外来化学療法室でのがん患者の栄養実態調査、味覚異常を改善する成分の作用機序の解析、味覚改善剤のスクリーニング系のための実験系の開発等に取り組んでいますが、今年度のそれぞれの進捗状況を報告します。

2. クラスター講演会

「小型魚類からヒトへ。味覚受容システムの解明」 17:00～18:00

藍原 祥子 博士

神戸大学大学院農学研究科 応用生命化学講座 食品・栄養化学教育研究分野

■要旨：味は、「食品の二次機能」といわれるほど、ヒトの食事の重要な要素を占め、生活のなかで大切にされている。生物学的にみると「味」とは口腔内で受け取る化学物質の情報であり、食べ物の取捨選択をするのに重要な情報を提供する。たしかに生物種間の味覚受容体の多様性は、味覚系が生活環境に基づいた食習慣に応じて進化した結果であると考えられる。しかしながら、体調や栄養状態によって味覚感受性が変化することや、成長に伴って味覚嗜好性が変化することといった、ヒトでも経験的に捉えやすい味覚が変化する現象については十分な説明がなされていない。小型魚類は、安価な脊椎動物モデルとして遺伝学や発生学の研究に積極的に用いられてきた。加えて、基本的には脳の構造がヒトとも共通であり、神経細胞の数（すなわち神経回路）が少ないこと、組織が小さく透明に近いことなどから、いち早いライブイメージングの可能性を有し、神経科学の分野での利用も拡がりつつある。本講演では、演者が行ってきたメダカを用いた味覚受容システムの研究を通して、愛らしくも優秀なモデル脊椎動物であるメダカの魅力を宣伝させていただきたい。

お問合せ先

医歯薬学研究部 代謝栄養学分野 阪上 浩

hsakaue@tokushima-u.ac.jp 内線 2516